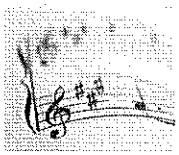
平成24年度　落合高等学校進路課通信　（普通科版）

風の階段 踏みしめて　～ 自己実現へ向かう道 ～



第 24 号　平成 24 年 10 月 17 日（水）発行

日馬富士はなぜ強くなったか　～　人の生き方というもの　～

前になるが、大相撲の千秋楽で、白鵬との結びの一番を制し、見事横綱の地位を得た日馬富士の話である。まれにみる熱のこもった、オーソドックスな相撲。相撲好きの私にとっても、しびれる一番。下手投げであれだけ執拗に横綱をねじふせるとはまさに力業だった。「死力を尽くしたあと、へたり込む」とはあのことだろう。

さて、そのあとの優勝インタビューが見事だった。「全身全霊」と繰り返す言葉の根拠をみた。日馬富士は、自分自身のルーツを語っていた。「先祖」のために力を振り絞っていた。もちろん、自分自身を産んでくれた母、尊敬する亡き父について感謝していることは言うまでもない。

私たち日本人がそうでないとはいわないが、あえて困難な道を歩み、「先祖」という人間の根底にあるルーツとルーツに根ざした願望を語ることができることほど、力を出せるものはない。

私自身、家を守る身として、三男坊の末っ子ながら、自身のルーツをみてきたはずだが、これには参った。「かなわない」と思った。しかしながら、現在を基点として、過去の延長線上にある未来は、同じ程度見渡しておきたい、とも思った。

【参考】大相撲口上あれこれ（大関、横綱への昇進時の一例。四字熟語が多いですが…）
千代の富士：「一生懸命」/貴乃花：「不撓不屈（ふとうふくつ）」/若乃花：「一意専心」「堅忍不抜」
武双山：「正々堂々」/白鵬：「全身全霊」（白鵬も日馬富士も）「精神一到」（何事かならざらん）
琴奨菊：「万理一空」（剣豪　宮本武蔵「五輪書」）（哲学的な発想、精神を入れたかったらしい）

学習実態調査の分析（普通科）　～ 9月実施分をもとに前・前々回と比較 ～

＜平均学習時間＞　【『平常時』と『定期考査直前』との比較検証】　＊他は、入試等対策準備も含む。

対象時期・教科・合計時間	国語	数学	英語	地歴・理科他	合　計
今回：平常時　　(9月)	２８	３５	３１	５０	１４４
前回：定期考査直前(6月)	２７	３５	３７	４３	１４２
前々回：平常時　　(4月)	２４	４１	４５	２６	１３６

（評）

今年度の進路目標は、「学習力」の向上である。「学習力＝『内発的・主体的な学習姿勢であり、外的な強制力をやや離れ、自主学習にも向かう姿勢』を育てたい。」のである。

「学習力」向上の検証ポイントとして、「定期考査直前」と「平常時」との学習時間を比べ、学習時間の上昇曲線の妥当性を判断することで、向上の可否を問う。つまり、定期考査直前で強制力が働かなくても、内発的に自主学習ができる意識面が備わるようになってきたかである。

学習実態に係る具体的な検証は、以下のとおり。大まかに言えば、表中の学習平均時間（合計）は、あまり変動していない。ただ、再び実施した「平常時」分（9/14 ～ 20）の結果としては、前回の「定期考査直前」（6/22 ～ 28）分と比べても、むしろ少々だが上昇している。上昇気運があるとするならば、少しずつながら、「学習力」向上の一端を思わせるものである。ただし、3時間以上の爆発的な力を見せる人が、定期考査直前よりも少ない。このことは、受験生たる資質としては、今もってなお、主体性には乏しいということにもなる。

端的に言えば、「学習」の継続は大学受験生、就職受験生として図られてはいるが、爆発的で意図的な学習ではない。「学習力」向上には、もっと内発的で時宜にかなった実践が求められる。ということだろうか。

なお、「学習力シート」なるものについても、３学年（進学直前）ということもあり、日常的に生活習慣を点検し、学習効果を点検する、といった手法をとりたい。しかしながら、現状では、「学習力シート」の活用は不十分であり、１か月３時間以上の学習時間を貫徹し、学年主任による褒賞を得るまでに至っていない。「学習力」を培い、その後の主体的な在り方生き方につなぐためにも、今こそ活用をすすめたい。　… ちなみにセンター試験まで残り 94 日である。 …